

道元禅師ゆかりの大佛寺山を歩く

硯の水・大佛寺跡・血流の池を巡る山歩き（平成29年4月16日）

あしハイキングクラブ

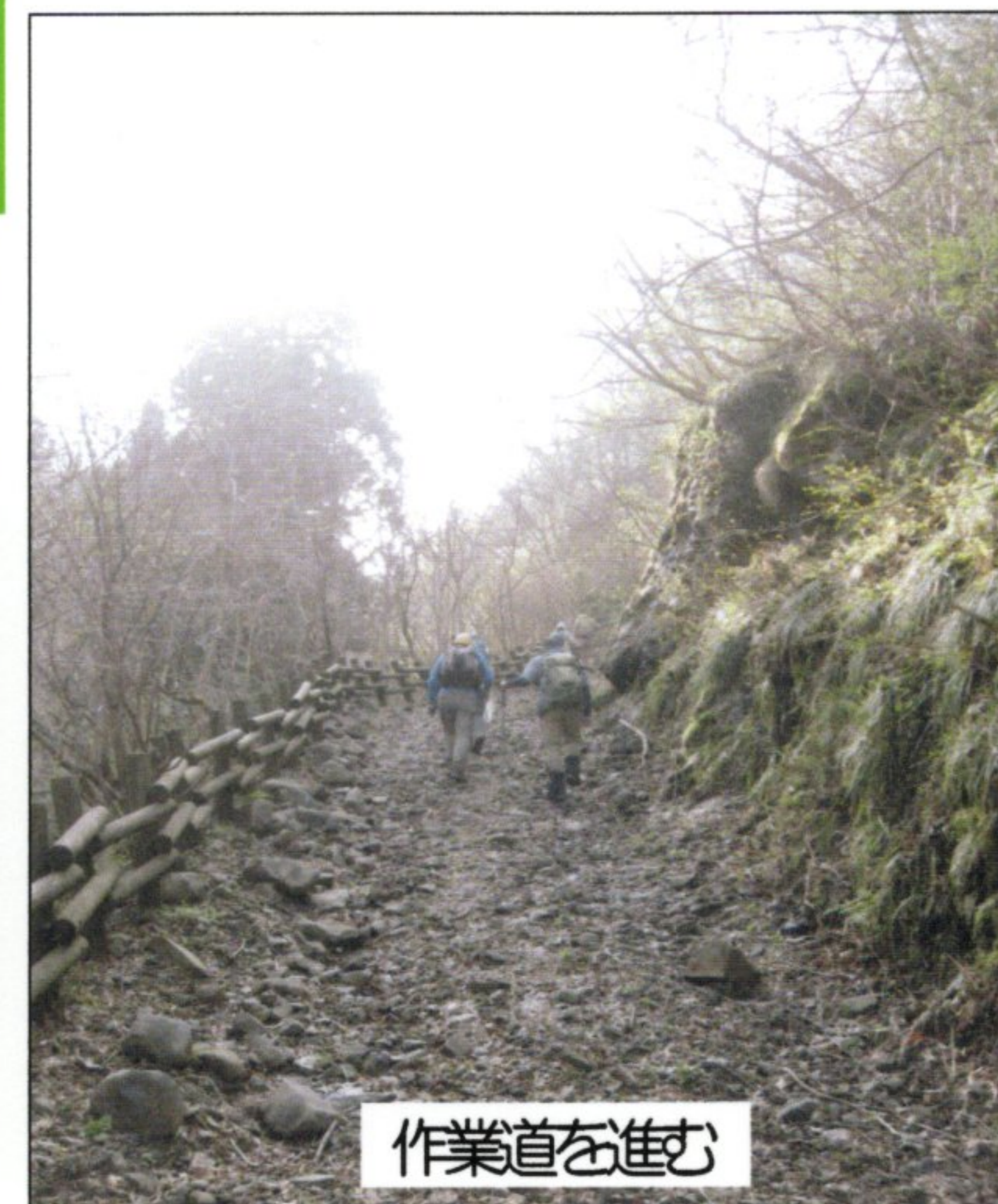
お父さんの山行き紀行

ishiduka



今年初めてのあしハイキング倶楽部の登山。参加者は男性7名、女性5名。今回は天候に恵まれ、永平寺町にある道元禅師ゆかりの大佛寺山（八〇七m）を目指す。永平寺ダムサイドから歩き、虎斑の滝、硯の水、大佛寺跡を巡り、大佛山山頂に立つ。続けてコースを南東に緩やかな尾根を進み、右手にある血流の池を巡り、美山町境付近で引き返し、大佛寺山まで戻り昼食とする。帰りは、十二時下山開始、二時十分下山完了。美山町のミラクル亭の温泉で身体をほぐす。

参加者
男：宮本・荻川・清家・上田・下村
伊部・石塚
女：伴藤・小柏・種田・鈴木・森田



作業道を進む

私にとって大佛寺山は初めての山。どんなコースなのか事前に調べて望む。七時に県雪研事務所に集合。清家さんと下村さんの車に分乗して、まず、永平寺ダムを目指す。八時にダムサイドに駐

車し、登山口を八時に出発。作業道がついていて、付近の植物を観察を楽しみ、地図を片手にポイントをチャックしながら歩く。白い花のミヤマカタバミ、青紫色や白い花のキクザキイチゲを目にしたので、早速カメラを向ける。



ミヤマカタバミ



キクザキイチゲ



ミヤマカタバミ

更に進み、小谷を渡る。ここでも、宮本会長、荻川さんが女性に手を差し伸べ、優しい一面を見せる。杉林の中で全員揃いの待ち一休憩。

しばらく、作業道を進み「ゴミがあるので、天ぷらの食材に採取します」となり、対岸で幾分採取。付近にはわさびの花が咲いている。



優しく手を差し出す宮本会長

「ここ」「虎斑の滝」への案内標識があり、宮本会長が「帰りに寄るよ」

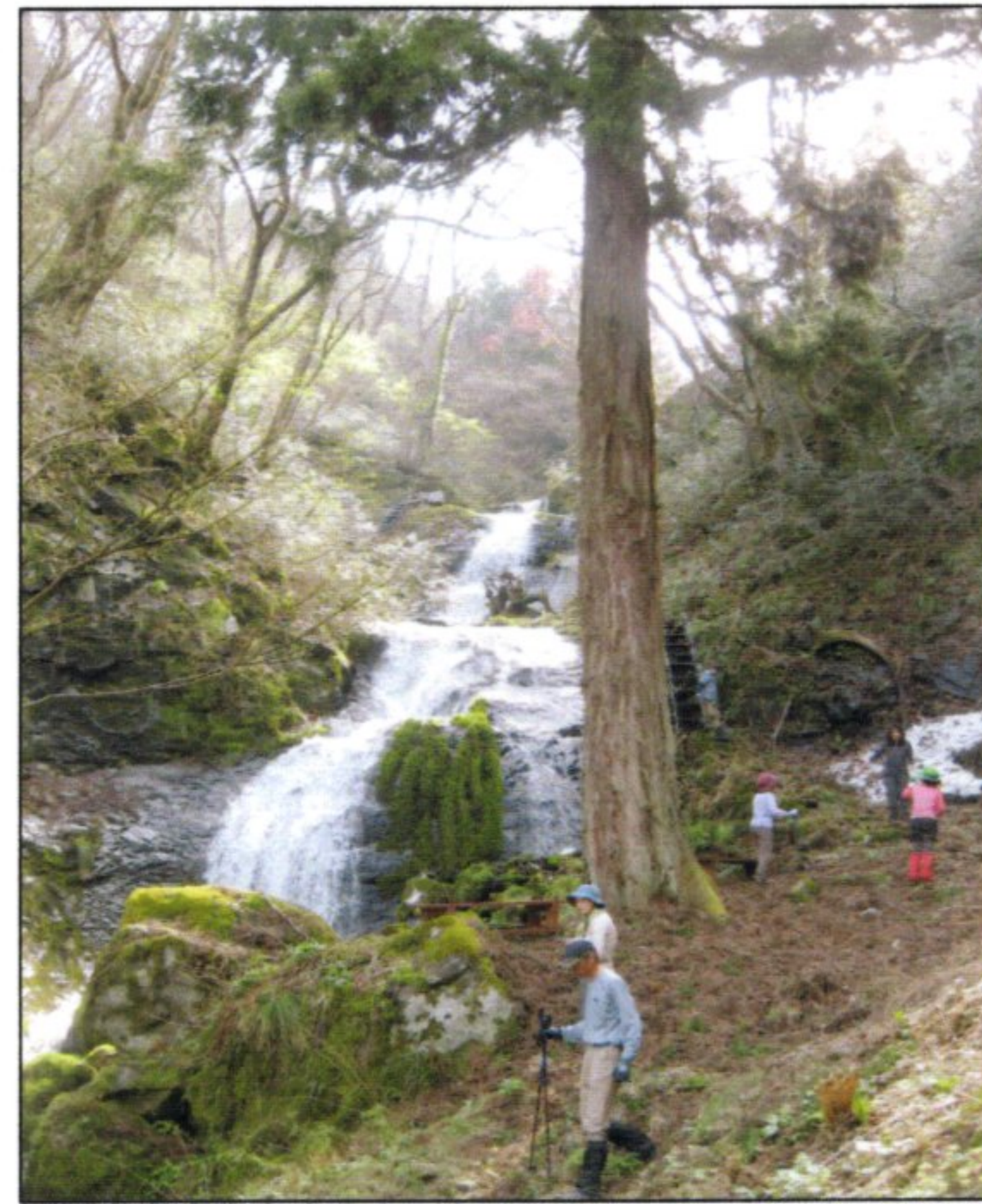


広葉樹の木々が少ない場所へ！



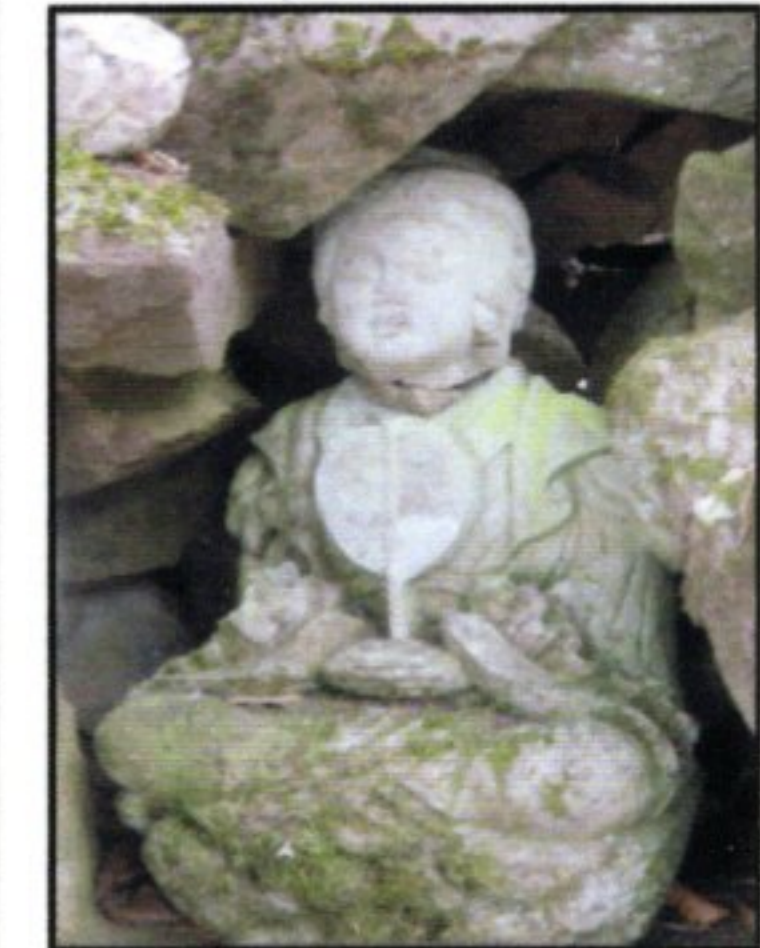
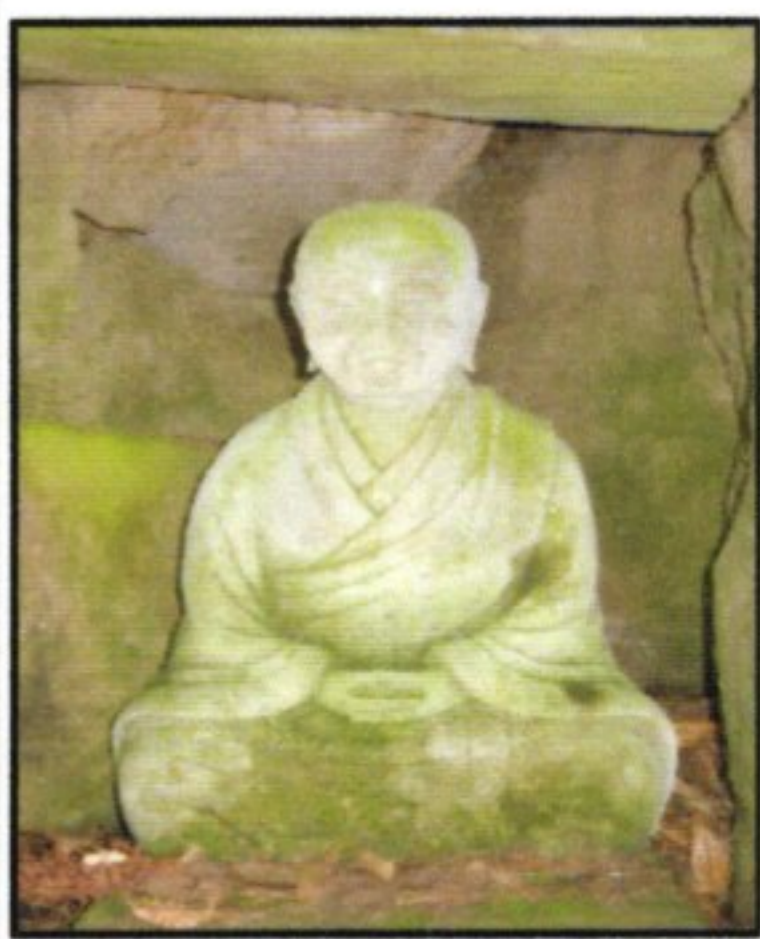
杉林を過ぎ足場の悪い急な登り

滝から来た道を引き返し、杉林まで戻る。途中の岩場に阿弥陀如来が祀っている。
谷沿いに杉林の中を歩くと、途中から杉林がなくなり、小さな広葉樹の森



水量が豊富な「虎斑の滝」

り、先に滝まで行きましよう」との一言があり、虎斑の滝の確認に行く。まだ、雪解け水が多いのか、水量は豊富で、綺麗だったので一本スギを入れて撮影する。



硯の水を飲む鈴木さん

に入る。ここからは、やや急な登りで足場も悪くなる。木々がなく開けたところで、全員揃うのを待つ。しばらく登ると、大きなキハダの脇を通る。ここで、鉦をリュックから出し、キハダの表皮を少し剥ぐ。「キハダの表皮は黄色く、胃腸薬になります。噛むと苦いですよ」と鈴木さんに伝え、キハダの黄色い樹皮を渡す。「ちょっと甘いですね」と言うので、自分で噛むとやはり苦い。更に進むと大きなスギが林立している箇所が見え、手前には、炭窯跡の脇に「硯の水」が流れている。そこで、鈴木さんに「飲んでみて下さい」とお願いして、その姿を撮影する。



キハダ

杉林の付近は、昔、大佛寺があった跡とのこと。付近は岩がごろごろして、岩の中に道元禅師と思われる座像や弁財天様まで安置されていた。



シロバナ



ハナ

る。独特の雰囲気がある場所だ。
ここで息を整えたので、最後の登りにかかる。道ベリには、今とばかりにイウウチワがピンク色のかわいい花を咲かせている。次にキンキマメザクラとシヨウシヨウバカマの花を見つけると大佛寺山頂(八〇七m)に到着。時計を見ると十分。

しばらくすると、登山道の右下に小さな池が見える。「これは、「血脈の池」と言われ、付近には言い伝えの内容が記された看板があったので読んでみる。
◎「血脈の池」の言い伝え
地頭波多野義重の愛人(おきち)が、本妻の嫉妬をかい花見で池のほとりを通った時、突き落とされて死んでしまったという。やがて、その怨霊が現れ、日夜本妻を苦しめたので、永平寺



意外に多い残雪



ナツツバキと清家さん

ここで、小休止をして、この場を食の場に決定。ここからは、右端にまだ雪が残るスキーシャム勝山のゲレンデが真っ白に見える。当然、法恩寺山も見え、左の方に越前大日山(越前甲)、加賀大日山、浄法寺山が連なり、手前に水無山、鷲ヶ岳、九頭竜川が望める。十分程休憩して、林道大佛線からの登山口方面に向け出発。途中、大きなナツツバキの木があったので、清家さんに横に立っていただき写真撮影。残雪を踏みながら緩い尾根道を快く進む。



ダノガイ

池から尾根に戻り、荒川さんの先導で、みんなが尾根を右手に進む。しばらくすると宮本さん、鈴木さんが遅れてきた。しばらく尾根を歩いたが、宮本さんが「これより先に行っても山菜はないし、引き返そう」と言うので、大佛寺山山頂へと戻ることにする。

途中で鮮やかな黄色い花が目につく。「あれはダンコウバイじゃないかな？」と思い写真に撮る。山頂には十二時に



言い伝えが残る「血流の池」

の開祖道元禅師に救いを求めた。禅師は、ある日池のほとりに行つて、仏祖より伝わった血脈を投じて供養したところ、成仏して二度と現れなくなったという。それ以後、この池を荒らすと大雨が降ると言われている。※血脈とは、師から弟子へと受け継がれる教法の〇〇の記録とある。最後の〇〇が読めない。残念。



天ぷらを揚げる鈴木さんと伊部さん

全員戻り、いつものとおり伴藤さんが調理の準備にかかる。自分も今朝預かっていた天ぷら油をリュックから取り出し、伴藤さんに渡す。伴藤さんは、持参した天ぷら鍋や、小麦粉、調味料な



調理する鈴木さんと伴藤さん



山頂で出会ったチーゴさんたち



食後の団らん風景

はなんですか」との問いかけがあったので、一番わかりやすい「コブシ」には花の下に小さな拓葉が着きますが、タムシバにはありません」と伝える。天ぷらを食しているのと、風の強い組のアン



ダノガイ



天鵝

ザクラの花が目につく。そこで、「タムシバとコブシの違いはなんですか」との問いかけがあったので、一番わかりやすい「コブシ」には花の下に小さな拓葉が着きますが、タムシバにはありません」と伝える。天ぷらを食しているのと、風の強い組のアン

どを取り出し、伊部さんがコンロの準備に取り掛かる。コンロ三本を組み合わせて天ぷら料理の開始となる。荒川さんが前日から準備してくれたコシアブラやユキノシタ、今朝摘んできたコゴミ(クサソネツ)を次々と鍋に入れる。宮本さんが「しっかり油の温度を上げないと、カラッと揚がらないぞ」と声をかける。鈴木さんと伴藤さん、伊部さんが次々天ぷらを揚げる。揚がる間に、リュックからお弁当と水筒を取り出し、昼食にとりかかる。おにぎりを頬張り、揚げたての天ぷらを賞味する。採れたての旬の食材での天ぷらは最高のご馳走だ。天気もよし、空気もよしで食も進む。



カキガ



シシ



カキガ

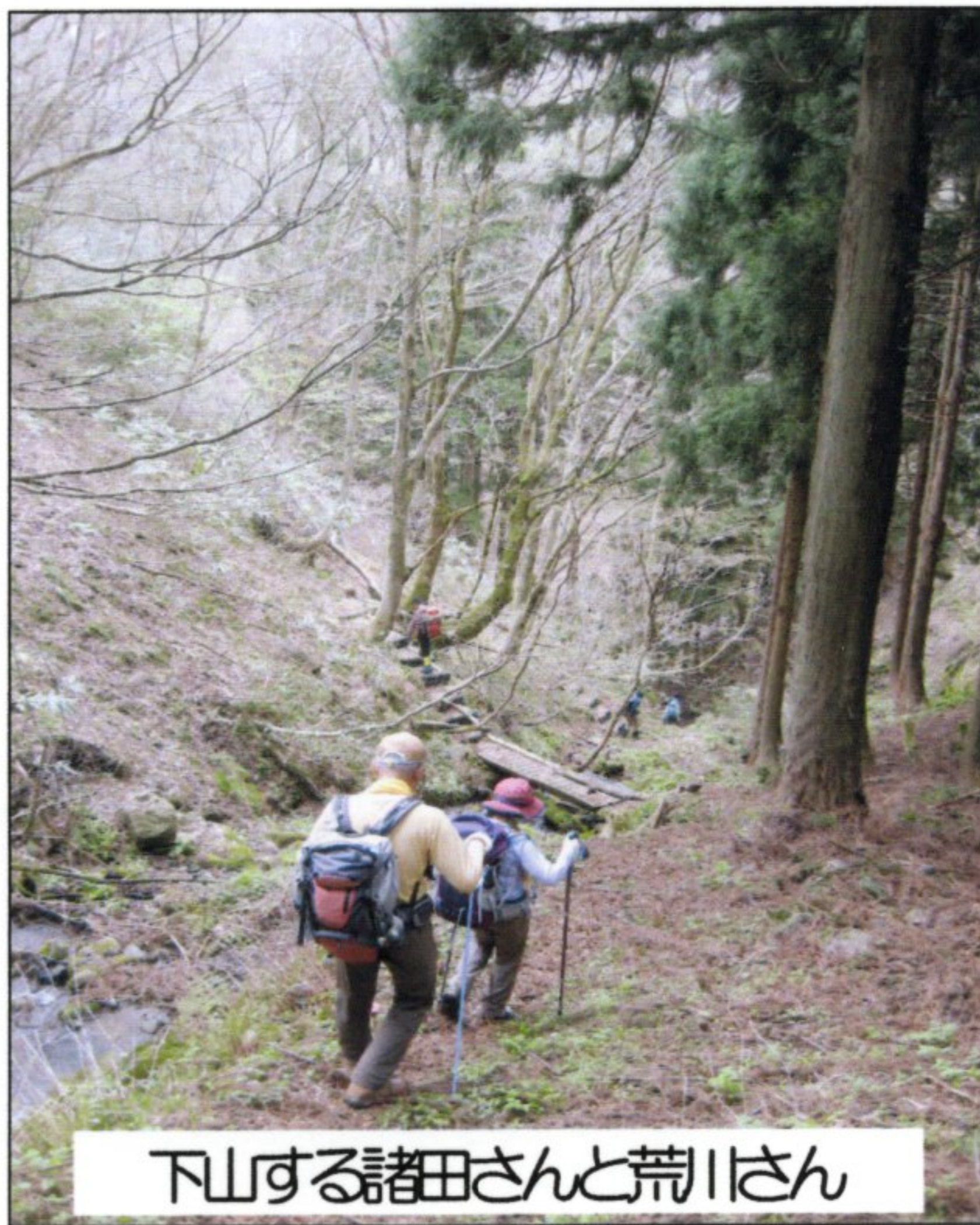


バックがやってきて、景色を眺めている。「撮ってあげましょうか?」と声を掛けると、「お願いします」との返事。越前甲をバックにシャッターを切る。

十二時少し過ぎに下山開始。道端で咲くスミシヤ、マエノゴサク、キクザキイチゲの青紫の花、白い花をカメラに収めながら



木橋を渡ると、谷の左を下り、虎斑の滝との分岐点に出る。ここで、水量の多い本谷を渡り、作業道まで上がり全員が揃うのを待つ。



下山する種田さんと荊川さん

ら、下山を楽しむ。スギ林に入ってからしばらくして木橋を渡る。(十二時半)



カキガ



カキガ

十三時十分下山完了。ダム周辺の桜の濃いピ

た。作業道沿いには、黄色いキブシの花がぶら下がっていて綺麗だったのでカメラを向ける。キブシはフジではないが、フジの花のように花が下がるので黄色いフジのような木と名前の覚えにできた。



先を行くヘルメットは宮本さん、青いリュックは種田さん

下山していると、対岸にコゴミが見えたので、ワサビの花と一緒に採取する。今晚の食材を一部確保した。一緒に下山していた鈴木さん、伊部さん、種田さんにも少しずつ配ることができ



ミラクル亭に向かうあしハイキング倶楽部御一行様



ンクがとても綺麗だった。十三時四十分美山町のミラクル亭で温泉につかり、十四時十五分に出発。福井には、十四時五十分には到着。解散となる。今日は、天候も良く、天ぷらも良く、本当に気持ちのいい山歩きが楽しめました。みなさん有難うございます。